

児童発達支援又は放課後等デイサービス事業に係る自己評価結果公表用

公表日： R5年 2月 28日

事業所名： 多機能型事業所フェローLabo

事業所職員及び保護者の方の御意見を踏まえ、自己評価の結果を公表します。
 評価を踏まえて、事業所の運営における課題点及び改善すべき点を確認し、今後の運営に活かしていきます。

区分	チェック項目	事業所の現状評価				保護者の方の評価				評価を踏まえた改善内容・改善目標	
		はい	どちらともいえない	いいえ	工夫した点、改善点	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない		保護者の方のご意見
環境・体制整備	1 利用定員に応じた指導訓練室等スペースの十分な確保	○			感染症対策も含め、適度な距離感を保てるよう座席等の配慮を行っている。	15	4	0	4	少し狭く感じる	定期的なレイアウトの見直しを行ったり、利用人数に応じて座席の配置の変更を行い、ゆとりをもって活動できるよう配慮していく。
	2 職員の適切な配置	○			アルバイトスタッフを構えることで、子どもたちとしっかり関わっている人員を確保するよう心掛けています。スタッフの声を掛け合いや目配り、気配りがよりできるとよい。	14	2	0	7	どのようなスタッフが、毎日何人居るか、専門性があるかわからない。	利用人数に応じて、アルバイトの配置等随時行っていく。また契約時には配置スタッフの説明もより丁寧に行っていく。
	3 本人にわかりやすい構造、バリアフリー化、情報伝達等に配慮した環境など障がい者の特性に応じた設備整備	○			視覚支援ツールも活用を行っている。必要に応じて追加で作成も引き続き行っていく必要があると感じている。	17	1	0	5		用途に応じて最適なレイアウトを心掛ける。(車椅子の利用時の座席配慮等)
	4 清潔で、心地よく過ごせ、子ども達の活動に合わせた生活空間の確保		○		もう少し整理整頓が必要だと感じている。	15	1	0	7		毎朝と子どもの帰宅後に掃除を行っており、今後も継続していく。また、子どもたちが触る場所の整理整頓に力を入れていく。

区分	チェック項目	事業所の現状評価				保護者の方の評価				評価を踏まえた 改善内容・改善目標	
		はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫した点、改善点	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		保護者の方のご意見
業務改善	1 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）への職員の積極的な参画		○		1年の方針、目標を掲げているが、振り返りや見直しの機会が必要だと感じている。申し送りノートを活用している。	/	/	/	/	/	申し送り以外にも定期的にミーティングを行い、振り返りや見直しの機会を作っていく。
	2 第三者による外部評価を活用した業務改善の実施			○	第三者による外部評価は行っていない。	/	/	/	/	/	
	3 職員の資質の向上を行うための研修機会の確保	○			内部で不定期に勉強会を実施したり、外部の研修に随時参加したりしている。	/	/	/	/	/	ケース等を用いて、内部での勉強会をより充実させていく。また、外部研修にも積極的に参加していく。
適切な支援の提供	1 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の作成		○		半年に1回、お電話またはzoomにてモニタリングを行っている。	21	1	1	0		ここ数年、直接お会いできる機会は少ないが連絡帳やお電話、zoom等と活用し、情報共有の機会を積極的に作っていく。初回の支援計画作成の際は、契約時に丁寧な聞き取りを行う。
	2 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画における子どもの支援に必要な項目の設定及び具体的な支援内容の記載	○			出来る限り、具体的な活動内容やかかわり方を記載するようにしている。計画に対しての具体的な支援内容の意見を出す機会があると思う。	21	0	1	1		職員間で、個々の発達課題に合わせた活動の立案や支援に関して随時話し合う機会を大事にしていく。また、個別支援計画に基づいた適切な支援を心掛ける。
	3 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせた児童発達支援又は放課後等デイサービス計画の作成	○			集団活動（小集団での活動）に関しては、月2回のイベント化ぶっ党やレクリエーションの時間の中で取り入れている。	/	/	/	/	/	子どもたち一人ひとりの成長に合わせた課題・教材の提案を行っていく。小集団で楽しめる活動のバリエーションもより充実させていきたい。
	4 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画に沿った適切な支援の実施	○			支援計画に沿った支援を心がけている。子どもたちのやりたいことは変化するため、定期的な見直しも必要だと感じている。	19	0	1	3		申し送りの時間も活用し、定期的に支援計画の見直しを行っていく。子どもたちの発達段階やニーズに応じた適切な支援を心掛ける。
	5 チーム全体での活動プログラムの立案	○			季節に合わせて行える活動やイベント等の立案を行っている。	/	/	/	/	/	引き続き、スタッフの強みを活かしながら、子ども達が楽しみながら学べるプログラムを立案していく。

区分	チェック項目	事業所の現状評価			保護者の方の評価				評価を踏まえた 改善内容・改善目標		
		はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫した点、改善点	はい	どちらとも いえない	いいえ		わからない	保護者の方のご意見
適切な支援の提供 (続き)	6 活動プログラムが固定化しないような工夫の実施	○			スタッフの得意分野を活かし、ICT以外の活動も取り入れている。(制作活動やお料理イベント等) ICTの活動も子どもたちの興味・関心に合わせて提供していけるよう、子どもたちからの聞き取りも行っていきたいと思っている。	16	3	1	3		特に平日は活動が固定化しやすいので、月間プログラム等も活用しながら、新しい事にもチャレンジしていけるように工夫していく。
	7 平日、休日、長期休暇に応じたきめ細やかな支援	○			休日はイベント活動や日中に公園活動を取り入れている。室内での活動はマンネリ化しやすいため、知育ゲームなども取り入れながら、子どもたちが楽しめる活動も提供していく。						特に、長期休暇に関してはプライベート等も随時取り入れていく事で、新しい事にチャレンジしたり、楽しんだりできる機会をも受けていく。
	8 支援開始前における職員間でその日の支援内容や役割分担についての確認の徹底	○			毎日申し送りノートの活用と、適宜口頭での確認を行っている。						引き続き、申し送りノートと口頭での情報共有の時間を作っていく。
	9 支援終了後における職員間でその日行われた支援の振り返りと気付いた点などの情報の共有化	○			毎日の申し送りノートでの共有と、翌日口頭での申し送りの時間確保を心掛けている。						引き続き、申し送りノートと口頭での情報共有の時間を作っていく。
	10 日々の支援に関する正確な記録の徹底や、支援の検証・改善の継続実施	○			活動記録への記載を行っている。支援の検証・改善の時間は今後定期的に時間を作っていきたい。						申し送りの時間も活用し、支援の改善を図っていけるよう努める。
	11 定期的なモニタリングの実施及び児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の見直し	○			契約時の聞き取りや半年に1回モニタリングを実施し、計画の作成、見直しを行っている。						半年を待たなくとも、適宜で個別支援計画の見直しは行っていく。
関係機関と	1 子どもの状況に精通した最もふさわしい者による障害児相談支援事業所のサービス担当者会議への参画	○			学校、関係機関からの要請に応じて、随時担当者会議への感が行っている。子どもの状況を事業所内でしっかり把握できるように会議前にはスタッフ内での情報共有も行っていきたい。						今後も、学校、関係機関からの要請に応じて、随時担当者会に参加する。

区分	チェック項目	事業所の現状評価				保護者の方の評価				評価を踏まえた改善内容・改善目標			
		はい	どちらともいえない	いいえ	工夫した点、改善点	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない		保護者の方のご意見		
の連携	2				該当者なし								
関係機関との連携（続き）	3				該当者なし								
	4			○	相談員さんとの情報共有は行っているが、幼稚園や学校等とは、十分に行うことはできていない。学校とは支援計画を共有するなど、連携を図ることが必要だと感じている。						適宜必要な関係機関と連携を図っていく。		
	5	○			他事業所との連携は、必要に応じて行っている。						適宜必要な関係機関と連携を図っていく。		
	6		○		専門性の高い講師の外部研修を受講したりはしている。児童発達支援センターとの連携は不十分なので、必要に応じて連携を図っていききたい。						児童発達支援センターとの連携は不十分なので、必要に応じて連携を図っていききたい。		
	7		○		休日の公園活動で、地域の子ども達と触れ合う機会はある。また新型コロナが収まったら、以前行っていた秋祭り等地域に開かれたイベントを再開し、交流の機会を作っていきたい。	4	1	5	13			引き続き、休日の公園活動や、イベント等で、地域の子ども達と触れ合う機会を設ける中で、相互理解に繋がるよう努めていく。	
	8	○			例年、夏祭りは地域の方々にも来ていただけるよう周知している。（新型コロナの影響で今年は未実施）							新型コロナの様子を見ながら、地域の方も参加できるようなイベントを企画・実行していく。	
	保護者への説明責任	1	○			契約時に丁寧に説明するよう意識している。	19	2	1	1			引き続き丁寧な説明を心掛ける。必要に応じて、個別にご説明させて頂く等の対応もしていく。
		2	○			随時丁寧に説明するよう意識している。	20	1	1	1			新型コロナの影響で、直接お会いしてのモニタリングが出来ていないが、説明不足とならないように、しっかりお電話でも対応させて頂く。

区分	チェック項目	事業所の現状評価				保護者の方の評価				評価を踏まえた 改善内容・改善目標	
		はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫した点、改善点	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		保護者の方のご意見
・ 連携 支援	3			○	ペアレントトレーニングは不十分である。今後、家庭でのお子さんとかかわり方等の相談・助言も積極的に行っていきたい。	8	4	2	9		今後は、新型コロナの感染状況を鑑みつつ、しばらく実施出来ない保護者勉強会等も開催・活用しながら、ペアレントトレーニングを充実させていく。
保護者への説明責任・ 連携支援（続き）	4	○			モニタリングや、お電話、連絡帳等でのやり取りに共通理解を図ろうと意識している。学校、家庭、他事業所ともより連携を図ることが必要だと感じている。	20	1	1	1		半年に1回のモニタリング、日々の電話や連絡帳でのやりとりにて、共通理解をはかっていく。また、必要に応じて学校や他事業所等の関係機関との連携も図っていく。
	5	○			日々、お電話や連絡帳、送迎時などのやり取りにて相談を受けられることがあるが、スタッフの相談援助のスキルを身に付けていくことが必要だと感じる。	19	0	3	1		送迎時は、保護者様とお話出来る貴重な機会ではあるものの、ゆっくりとお話出来ない為、連絡帳やメール、お電話を活用して、情報共有の機会を作っていく。
	6			○	保護者会の実施はできていないが、講師をお呼びし、事業所内外どちらの方も参加できる講演会の開催を行った。（スマイルプロジェクト）	3	4	9	7		今年度は、保護者会を実施出来なかった。保護者の方も一緒に学べる研修会や座談会を計画していく。 同グループ内の見学会等、自社が提供できるサービスに関して知ってもらう機会を設けていく。
	7	○			苦情に関しては、社内の仕組みに添って対応している。	17	1	0	5		社内の仕組みに沿って、迅速かつ丁寧な対応を心掛けていく。起きたミスに対する事業所としての今後の対応は、保護者様にも丁寧に説明する事を意識していく。
	8	○			日々、お電話や連絡帳、送迎時などのやり取りにて相談を受けられることがあるが、スタッフの相談援助のスキルを身に付けていくことが必要だと感じる。	20	2	0	1		今後は、しばらく出来ない保護者勉強会等も開催・活用しながら、ペアレントトレーニングを充実させていく。
	9	○			毎月1回日々の活動の様子を載せたLaboだよりを作成、配布している。 SNS (Instagram、Facebook) で、子ども達の活動の様子を投稿している。	22	1	0	0		引き続き、子ども達の活動の様子をよりしっかりと伝えられるようにHPやSNSの更新、Laboだよりの配布等に努めていく。
	10	○			契約時、または1年更新で、個人情報開示に関する聞き取りを行っている。	19	1	0	3		個人情報の取り扱いに関しては、保護者様からの聞き取りを元に、慎重に取り扱っていく。（SNS、チラシ等）

区分	チェック項目	事業所の現状評価				保護者の方の評価				評価を踏まえた改善内容・改善目標	
		はい	どちらともいえない	いいえ	工夫した点、改善点	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない		保護者の方のご意見
非常時等の対応	1 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルの策定と、職員や保護者への周知徹底	○			職員は定期的な確認を行い、保護者様には契約時に説明を行っている。安心してご利用いただけるよう周知していきたい。	13	0	1	9		契約時の丁寧な説明を心掛け、事業所での対応も保護者様に発信していくよう努めていく。
	2 非常災害の発生に備えた、定期的に避難、救出その他必要な訓練の実施	○			スタッフは年3回行っている。うち2回は子どもたちと一緒に実施している。	16	3	0	4	私の子どもは一度も参加したことない	引き続き子どもたちとの避難訓練を継続して行っていく。より多くの方にご参加いただけるよう、しっかりとご案内行き、実際の様子はLaboだより等で保護者様にもお伝えしていく。
非常時等の対応（続き）	3 虐待を防止するための職員研修機会の確保等の適切な対応	○			社内で虐待防止委員会を設置し、定期的な外部研修を行っている。また、年1回以上、外部研修を受講している。						引き続き外部研修、部署内研修等を行う中で、虐待防止に努めていきたい。
	4 やむを得ず身体拘束を行う場合における組織的な決定と、子どもや保護者に事前に十分に説明・了解を得た上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画への記載	○			個別支援計画に記載している。						引き続き、個別支援計画に記載していく。
	5 食物アレルギーのある子どもに対する医師の指示書に基づく適切な対応	○			契約時にヒアリングを行い、おやつ提供時やお料理イベント時には、出来る限りの配慮を行っている。						引き続き、契約時にヒアリングを行い、おやつ提供時やお料理イベント時には、出来る限りの配慮を行っていく。
	6 ヒヤリハット事例集の作成及び事業所内での共有の徹底	○			事故やヒヤリハットが起こった場合は、ヒヤリハットのフォーマットに記録し、社内でも共有する事になっている。						今後もヒヤリハットの事例を重ね、スタッフ間で対策を考え実施していく中で、安心安全に利用してもらえる事業所にしていきたい。